

9月全学連大会へ!

2014年8月28日
No.217

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長)書記局通信

全学連大会結集の呼びかけ②

◆沖縄大学法経学部4年生 盛島琢允

全国の皆さん、こんにちは。沖大自治会副委員長の盛島琢允です。

今年5月、赤嶺を先頭に、沖縄大学に自治会をつくりました。

僕が沖大自治会をつくりようと思った理由は、法大をはじめ全国の学生との出会いがあったからです。大学入学後、煙草禁止令が出てから「おかしいな」と思ったのですが、声があがらなかったため、こういうものなのかと思っていました。ですが、いろいろな大学の話を聞くたびに「やっぱりおかしいな」と思い、活動を始めました。

今年、自治会をつくるために全国から沖縄に集まっていると聞いて、僕もその中に入って、一生懸命にやらないといけないなと思い、赤嶺と一緒に声をあげました。そして、念願の自治会をつくることができました。大変ありがとうございます。

これに対して、沖大が赤嶺委員長への訓告処分をやってきました。

大変許せません。それに最近、安倍政権が辺野古で「移設」のための基地をつくりようとしています。僕個人としても、自治会としても、許せないことだと思うので、処分撤回、基地建設阻止のために一生懸命がんばっていきたくと思っています。



全学連大会に皆様の持つ情報と共有するために参加したいと思っていますので、よろしくお願いします。

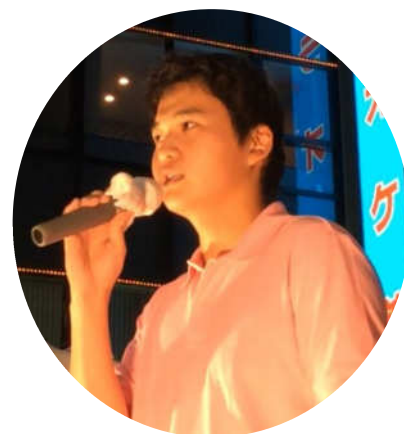
◆神奈川県1年 吉田耕

全国の学生のみなさんに、2014年度的全学連大会への結集を呼びかけます。

この間、社会情勢は日本に限らず、世界中で大きく変化しています。クリミア半島などをめぐるウクライナ情勢、イスラエルによるガザでの虐殺、アメリカによるイラク空爆。そしてこの日本でも、7月1日の集団的自衛権閣議決定、民衆を弾圧するためのものとしての秘密保護法強行採決、それに呼応するように押し進められる辺野古の新基地建設、連日煽り立てられる近隣国との間の戦争危機。と、今「戦争」がリアルに迫って来ていることをみなさんも感じていると思います。

歴史上、反戦運動を先頭で担ってきたのは労働組合、そして学生です。今、僕たち学生・労働者はこの戦争情勢、そして安倍政権の生活破壊・戦争政治に声をあげなければなりません。しかし、現在の大学は学生のそういった声を促すどころか、むしろ率先して学生を弾圧しています。

この、口では戦争反対と言うが、学生には徹底的に声をあげ



【全学連第75回定期全国大会】

◆安倍政権たおそう! ◆全国大学に自治会を!

◆法大文化連盟委員長・武田君を取り戻そう!

9月3日(水)~4日(木) 東京・浜町区民館にて

参加費用=1000円(会場代、資料代など) ※宿泊費は除く



【武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第2回公判】

9月10日(水)13時半~ 東京地裁429号法廷にて

※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

させない、「リベラル大学」「リベラル教授」のペテン性が、この間の法政大学の闘争でも露わになっていると思います。彼らの「お言葉」では僕たちの生活は守れないし、戦争情勢と対決できません。この戦争情勢に、本当に対決し声をあげるという事は、大学当局、そして権力と闘う事と一体です。一人では、とても権力とは闘えません。

しかし、全国にこの情勢で声をあげたい、あげているという学生がいます。今回の全学連大会で、そういった学生が集まります。学内規制、戦争、原発問題、差別問題、労働問題など、ぜひ自分の問題意識や意見をぶつけに来てください。この大会で一緒に論議して、この時代に共に闘い、この戦争情勢をぶっ飛ばすような、力強い運動を一緒に創りましょう。

◆富山大学2年生

全国のみなさん。

2014年前半は、5月13日の法政大学・武田雄飛丸君の不当逮捕に始まり、7・1集団的自衛権容認の閣議決定と、安倍政権は自らの延命のために手段を選ばず、躍起になっています。3・11福島原発事故以来、汚染水漏れ処理、小児甲状腺がんの増加の黙認、「復興」をアピールするJR常磐線の延伸など明らかに「命よりも金」という醜い姿を見せています。

しかし、それは逆に私たちに資本主義の矛盾を確信させ、学生や労働者が行動し固い団結を生み出しました。そして、今年の武田君の不当逮捕は、明らかにその後控えた沖縄大学集会に彼を参加させないための卑劣な攻撃でした。私もこの沖大集会に参加しました。ここで私が見たものは、戦争反対と表向きは訴えながらも、その実、学生が戦争反対を訴えれば、徹底的にその声を押しつぶすリベラルの仮面を被った多くの沖大教職員の姿でした。彼らはこともあろうに、沖大生である赤嶺君に向かって、自らが組織したゼミの学生を使い、帰れコールをさせたり、他の学生の発言を妨害するといった行為に及びました。しかし、そうした弾圧にも負けず、あくまで戦争反対、原発反対を訴え続けた赤嶺君の姿は、確かに沖大生の心を打ち、その後の学生自治会建設へと大きく前進しました。

そうした中、危機にあえぐ安倍政権がだしたのが7・1閣議決定です。大多数の学生、労働者の反対を押しきり、閣議決定だけで憲法をねじ曲げた恐るべき暴挙です。そうした中、既成の政党や法政大学・田中優子総長に始まるエセリベラルの人たちは、口では安倍政権反対をつぶやくも、8・6ヒロシマ行動では7・1閣議決定には触れず完全に口をつぐんでいました。つまり、本心では安部政権と闘おうという気持ちは欠片も持っていないのです。ですが、NAZENナガサキの城台さんは、はっきりと安倍政権を弾劾しました。それは彼女がフクシマの思い、被曝労働反対の労働運動と共に闘って培ってきたものが確実にそうさせたと思います。そして、8月15日の武田君の奪還。この成果は本当に大きい。それはまさに、首都圏の学生、そして全国学生の無数の団結、そして最後に闘い抜いた武田君の学生本来の力で勝ち取ったものです。

学生は押さえつけられれば、ただ黙っているような弱い立場ではないのです。学生は、大学から原発や戦争、軍事研究を止められる存在でもあります。全国で学生自治会を作って、大学から戦争や原発を止めよう。それを掴んで、9・3～4の全学連大会に多くの仲間を結集させ大学、社会を変えよう。



飯田橋駅前では全学連大会結集を呼びかける法大・山本君（8月28日）

◆全学連三里塚現地行動隊 今井治郎

全国の学生の皆さんに全学連大会への結集を訴えます！

7・1閣議決定でついに日本は「戦争か革命か」の時代に入りました。その中で大学政策は重要な柱の一つと位置づけられています。一方で「グローバル人材」の育成や軍事研究の強化によって学生の意思を挫き、他方では非正規職化の拡大や賃金低下の中で奨学金滞納者に対する経済徴兵の示唆などで実際に戦争を担う人材をつくり出す。僕たちの未来は安倍の戦争政策で僕たち学生の未来が奪われようとしています。

この攻撃を打ち破るには、僕たちの未来を真に切り開くには何が必要でしょうか。僕はそれは「ひとりの仲間も見捨てない」、「絶対反対」の路線で不屈に闘い抜くことだと思います。全学連は法大闘争を始めとする全国大学での闘いでそれを実践してきました。

僕たちの未来を取り戻すには安倍政権を打倒し、現在の社会体制をすべてひっくり返すことが必要です。だからこそ、国家権力は全体重をかけて学生を分断し、闘いを潰そうとしてくるのです。法大におけるのべ126人の逮捕、5月沖縄大学集会における沖大当局による反動の組織化や処分策動、全国の大学で行われる闘う学生に対する親や公安警察を導入しての妨害…悪辣な攻撃は枚挙に暇がありません。

その中であいまいなものは削ぎ落とされ、あるいは転向を繰り返してきました。法大の田中優子総長や沖大の仲地博学長といった戦争反対を掲げる「リベラル」と呼ばれる学者が、自らの大学で何をしてきたか見てください。耳ざわりの良いことだけを言って、警察権力には進んで尻尾を振る「脱原発」や「平和」を謳う活動家連中にこの世の中を変えることができるのでしょうか。絶対に無理です。彼らは立ち上がった膨大な人々の怒りを国家に向かわせないように組織することで運動を分断・破壊し、現在の新自由主義体制の最悪の補完物に成り下がっているのです。

この現状を打ち破る路線を作るのが全学連大会です。福島や沖縄を始めとする、全国の大学で徹底非妥協で闘う学生が一同に会し、全国の闘いを共有する中で団結を打ち固める闘いです。今の世の中は何かおかしい、変えなきゃいけないと少しでも思っている学生は全てこの場に集まってください！